



「赤い羽根自販機」の設置協力者募集



設置すると「地域社会への貢献」につながる「赤い羽根自販機」って何?!

「赤い羽根自販機」とは、飲み物を購入すると、その売上の一部が赤い羽根共同募金に寄付される赤い羽根のロゴの付いた自販機です。販売業者は、売上に応じて赤い羽根共同募金に寄付を行い、その募金は、地域の福祉活動に役立てられます。それぞれの設置者、購入者、地域社会にメリットがある赤い羽根自販機ですので新規設置や設置先の紹介などにご協力をお願いします。

設置者

- ①販売業者から、売上の一定額が、手数料として設置者に支払われます。
- ②費用をかけず、地域福祉への貢献ができます。(設置企業等のイメージアップが期待できます)

購入者

飲料水を購入するだけで手軽に募金に協力でき、身近な地域の福祉活動に貢献できます。指1本でできるボランティアとなります。

地域社会

売上の一部が販売業者から赤い羽根共同募金に寄付されるため、地域福祉推進の財源が増えます。



私たちの「身近な地域の福祉活動」に使われている「赤い羽根共同募金」!

赤い羽根共同募金にお寄せいただいた募金は、高齢者の生活を支える活動、子育てを支援する活動、障がいのある方々の活動など、地域の身近な福祉活動に助成されています。



ご協力をいただいた設置例



由布市狭霧台展望台様



大分県立病院様(バス停)



TOKIWAわさだタウン様(イベント広場)



大分空港ターミナル様(3F)



九重観光サービス様



県総合社会福祉会館(3F)



売上の一定額が、「設置者の収入(販売手数料)」になります!

設置していただいた方には、販売業者から一定の販売手数料が支払われるほか、自販機は無償貸与、設置に伴う経費も無料で、自販機の管理や商品の補充、故障時の対応はもちろん、空き容器の回収、釣銭の管理など、すべて販売業者が行います。

設置いただく方の負担は、設置場所の提供と電気代(月平均3,000円程度)のみとなります。

販売業者	ハートフル福祉募金	南九州ピバレッジサービス	伊藤園	シーアール
設置者の収入	売上の17%程度	応 談	売上の20%程度	売上の20%程度
取扱商品	アサヒ飲料、大塚ペパレジ他	コカ・コーラ、アサヒ飲料他	伊藤園の商品	アサヒカルピス、キリンピバレッジ他

お問い合わせ先…大分県共同募金会 TEL:097-552-2371(担当:足田)

大分県身体障害者福祉センター

ふれあいフェスタ

が開催されました！

3月4日(日)障がいのある方と一般の方との交流等を目的とした「大分県身体障害者福祉センターふれあいフェスタ」が、県総合社会福祉会館で初めて開催されました。

あいにくの雨模様の天気でしたが、延べ千人を超える方々が来場され、花の苗や団子汁の無料配布もあり、大盛況となりました。

大分舞鶴高校、大分商業高校の生徒もボランティアとして参加していただきました。フライングディスク、ふうせんバレーボール、サウン



ドテーブルテニス、卓球バレーなどで交流を行ったほか、切り紙、切り絵の実演や車いす体験、音感教室や利用団体の「優音」、「メロディ」による演奏会で楽しいひとときを過ごしました。

絵画、書道など教室受講生の作品展も開催されており、閉会式では表彰式が行われました。

また、東日本の復興支援を目的とした第3回地域交流朝市もありました。

第23回豊の国ねりんピック シルバー作品展の作品募集!!

第23回豊の国ねりんピック「シルバー作品展」及び「シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展」を7月4日(水)から7月8日(日)まで大分市のアートプラザで開催します。

「シルバー作品展」は日本画、洋画、彫刻・彫塑、工芸、書、写真の6部門で作品の募集をします。

応募資格は、県内に在住する60歳以上(昭和28年4月1日以前に生まれた方)のアマチュアの方で創作された未発表の作品で、各部門とも1人1点となっています。

応募される方は5月7日(月)～

6月8日(金)の間に所定の申込用紙に記入のうえ、居住地の市町村の高齢者担当課に提出してください。

各部門の最優秀作品は、10月13日(土)～15日(月)に開催される第25回全国健康福祉祭宮城・仙台大会美術展に大分県代表作品として出品されます。

全国健康福祉祭では、昨年のくまもと大会の工芸の部で為末雅則さん(中津市)が、平成二十一年の北海道・札幌大会では洋画の部で中井フサさん(別府市)が厚生労働大臣賞を受賞しております。「シルバー作品展」に奮ってのご応募をお待ちしております。



花籠(千鳥掛)
為末 雅則

“その人らしく生きる”支えに

権利擁護・成年後見セミナー

1月22日と3月2日に、「権利擁護・成年後見セミナー」を開催しました。

1月22日は、「障がい者の権利擁護・地域生活定着支援セミナー」として恩賜財団 済生会支部大分県済生会との共催で開催しました。第1部の基調講演では、自立生活センター・メインストリーム協会副代表の玉木幸則氏に「地域で暮らすということ」地域生活支援の視点からみる障がい者と犯罪」と題して講演いただきました。ご自身の体験を踏まえ「生きていく以上明日がある。しょうもない人間なんて一人もない。それは障がいがあるうがなかるうが、人間みんな同じ」障がいのある人が地域の中で阻害されたり、変な気を使われたり、生きづらさを感じる地域社会の仕組みや、その地域社会をつくってきた人たちの意識（ここ）の中にこそ、「真の障害」が潜んでいる」とのお話がありました。

第2部では、「障がい者と犯罪」現行の刑事手続きとその問題点」として、福井信之弁護士に、刑事手続きの流れから捜査段階、公判段階、社会復帰・更生に向けた活動それぞれの問題点についてわかりやすくお話いただきました。



第1回セミナー
福井弁護士



第1回セミナー
玉木幸則氏

3月2日のセミナーでは、西九州大学教授で、高齢者虐待防止ネットワークさがの代表でもある倉田康路氏に「高齢者虐待を防げ」高齢者虐待防止ネットワークさがの取り

組みから」と題して、同ネットワークさがが行った実態調査から見えてきた虐待の実態とその背景、発生予防・早期発見、地域における防止策などについて講演いただきました。「虐待かもしれないと思うところから、いかに“通報”につなげるかが大切である」など、本県でも大変参考になる内容でした。

後半は分科会を行い、第1分科会は大分県弁護士会 高齢者・障がい者の権利に関する特別委員会と大分県社会福祉士会から「高齢者虐待対応」について、第2分科会は大分県医療ソーシャルワーカー協会から「医療現場での権利擁護」について、第3分科会は大分県地域生活定着支援センターから「生活困窮者支援事業の取組み」についてそれぞれ発表があり、どの分科会も参加者が熱心に耳を傾けていました。

セミナー終了後に成年後見制度や虐待に関する相談会を実施し、相談者が弁護士や社会福祉士等からアドバイスを受けました。



第2回セミナー
分科会の様子



第2回セミナー
倉田康路氏

県社協では、今後も権利擁護制度の効果的な利用や地域におけるネットワークづくりなど、権利擁護活動の普及・啓発を行ってまいります。

賛助会員ご紹介

賛助会員にご加入いただきありがとうございました。大分県社会福祉協議会では、本会の活動に賛同いただける「賛助会員」へのご加入をお願いしています。

ホームページに賛助会員募集のご案内を掲載しています。

【年会費】

- 個人会員 1口 3,000円
- 団体・法人会員 1口 10,000円

ありがとうございました



賛助会員

富国生命保険相互会社	大分県司法書士会
(有)大分エンゼル商事	平岡 祥子
(株)大分銀行	医療法人英然会里見医院
新日本法規出版(株)福岡支社	(株)さとうベネック
(株)オフィスジャパン大分営業所	(株)メンテナンス
大分県医師会	高橋 勉
社団法人 大分市医師会	内田 隆之
大分県勤労者医療生活協同組合	神本 紀武
臼杵 清次	濱田重工(株)大分支店
大分県薬剤師会	(有)大分タキ
(株)太田旗店	社団法人大分県建設業協会
大津 幸江	(株)大分白屋
名鉄観光サービス(株)大分支店	(株)電子印刷センター

(平成24年1月31日～2月23日) (敬称略)

平成24年度

大分県社会福祉施設等経営支援セミナーのご案内

大分県社会福祉協議会では、例年、社会福祉施設等の職員の方々を対象に、テーマ別セミナーを年10回開催しています。

平成24年度も6月から新たなメニューを加えて、下図のとおり年10回の開催を予定しています。

施設利用者へのサービスをよりよく提供するため、職員が抱える悩みを解消し、職場において快適に仕事ができる知識や技術が習得できますので、より多くの職員の参加をお待ちしています。

開催日	内 容	開催日	内 容
6月13日	効果的な部下新人育成の実務研修会	11月21日	業務改善基礎研修会
7月11日	メンタルラインケア基礎研修会	12月 5日	ヒューマンサービス力アップ研修会
8月22日	利用者満足(CS)向上研修会	1月16日	職場内研修の手法研修
9月19日	論理的思考力向上研修会	2月 6日	財務管理研修会
10月24日	クレーム対応研修会	3月 6日	リスクマネジメント研修会

表紙のごとば

「地域交流朝市」の1コマ。朝市は会館周辺にお住まいで、特に買い物に不自由している方々への支援と地域交流の場、さらに東日本大震災への継続的な復興支援を行うため、新たに23年度から、県内授産施設やボランティアグループ、コープおおいた等企業、市町村社協など多くの参加協力を得てはじめました。今年度も、地域の皆さんと“共に”笑顔になることができる、そんな小地域福祉活動を続けたいと思っています。



 この機関誌は、共同募金の配分を受けて発行しています。